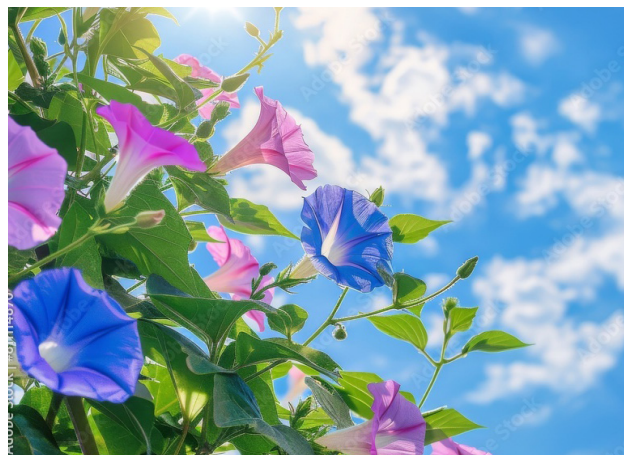




いよいよ夏本番です

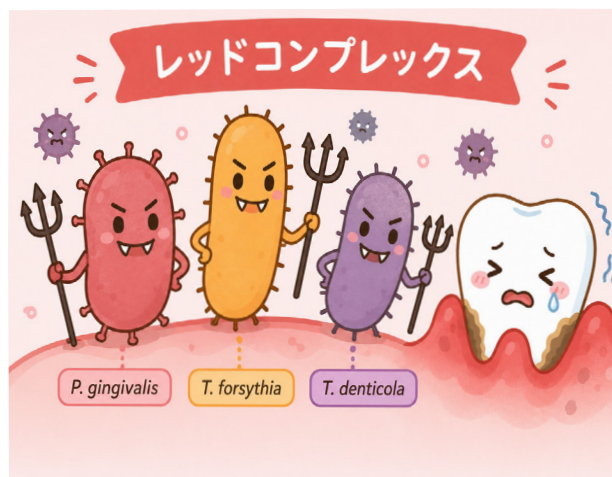
7月と言えば、「梅雨明け」と共に「本格的な夏」が始まる季節です。今年の6月は、東京で観測した2000年～2025年の「6月の平均気温は22.8℃」ですが、2026年の6月18日時点の「6月平均気温は21.0℃」と例年に比べてかなり低く推移しています。それは、「オホーツク海高気圧」から吹き込む「冷たく湿った北東風・やませ（山背）」の影響で、「梅雨寒」となり、例年に比べて「非常に涼しい」傾向となりました。「やませ」は単に空気が冷たいだけでなく、「大量の水蒸気」を含んでいるのが特徴で、「日本列島」に吹き付けると「低い雲や霧」を発生させ、「東日本や北日本の太平洋側」を中心に曇りや雨の日が多くなり、「日差しが遮られる」ことでさらに気温が低下します。去年は「観測史上最も暑い6月」でしたが、今年は一転して「ひんやりとした体感」の日が多かったです。一方で、「気象庁」が発表している「7月の天候予報」によると、今後は徐々に「太平洋高気圧の勢力が強まり」、「厳しい暑さ」になると予想されています。「急な気温の上昇で、体調を崩さないよう」に注意が必要です。そして、気象状況などを確認して、「エアコン」の使用やこまめな「水分・塩分補給」などで、「熱中症」への厳重な警戒と予防行動が必要です。



ハヤカワ歯科 院長 早川琢郎

歯周病は歯周ポケットの管理が大切です

「歯石」は歯に付着した「プラークが石灰化」したもので容易に除去できない歯の沈着物で、軽石のように小さな穴が開いていて「歯周病菌」が繁殖し、「毒素」を出します。その「毒素」が歯肉を腫らし、歯の周りの歯槽骨を溶かします。「歯石」自体が「歯周病の原因」であると考えられていた時期もあり、「プラーク」による「バイオフィルム」が「歯周病の原因」と言われる時期がありました。その後、「嫌気培養法」の発達により「嫌気性菌」が検出可能になり、「10数種類の嫌気性菌」が検出され、現在は、「歯周病関連菌の病原性」の高低に基づいて「歯周病菌のピラミッドスタイル」が形成されました。最も病原性が高い「3種類の歯周病菌（P.gingivalis, T.forsythia, T.Denticola）」は「レッドコンプレックス（赤い複合体）」と名付けられました。その中でも、「P.gingivalis」が最も「病原性が高い」ことも示されました。この「3菌種に混合感染」している場合、「歯周病」がかなり進行しているというデータも示されています。歯肉炎から歯周病になり、「歯周ポケット」の中で繁殖している「悪玉菌」は、歯周病を進行させて、歯と歯肉の間の「歯周ポケット」を広げ、「バイオフィルム」を作って「細菌」が増殖し、「歯周ポケットの潰瘍面」に侵入し、「毛細血管」から人体の中の「血管」に入り込み、更に、「血管」の中でも増殖していきます。このように血管内に「歯周病菌」が侵入することを「歯原性菌血症」と言われ、様々な全身疾患を引き起こします。



7月のお知らせ

- 「ハヤカワ歯科のホームページ」では、「当院の診療方針」や「ハヤカワ歯科インフォメーション」のバックナンバーを掲載しています。これからも、皆様のお役に立つ情報の提供と内容の充実に努めてまいります。

<http://www.hayakawashika.com/>「ハヤカワ歯科松戸市小金原」
検索でお願いいたします。

- 「小児の歯並び」「咬合育成」「口腔機能向上」のご相談、治療、トレーニングについて随時受け付けております。

日曜診療日(9時～13時30分)

7月12日、26日 / 8月9日、23日